

令和7年（2025年）度事業計画

我が国の総人口が年を追うごとに減少していくなかで、65歳以上の人口比率は29.3%(3623万人)で過去最高・最多となりました。いわゆる「団塊の世代」が全員75歳以上となって超高齢社会を迎える今年は、雇用・福祉・医療といった経済・社会の広い領域において深刻な影響を及ぼす「2025年問題」が指摘されてきました。高スピードで増える後期高齢者などの孤立や孤独を防ぐ様々な取組の必要性が高まります。当協会は令和6年6月に創立40周年を迎えましたが、今後も高齢者の社会参加活動を活発化させ、シニアの生活の安定・向上を図ります。

2025年度はSDGs協働事業、「フレイル防止」に繋がる高齢者の社会参加を促す魅力あるイベント・サークル活動、会員の有する資源を活かした新事業、並びに既存事業の深耕など、次のとおり事業計画を策定します。

I. 公益目的事業・・・高齢者の社会参加支援

1. 社会参加支援事業（定款第4条第1項第1号事業）

（1）社会貢献促進事業

①本部および広島支部におけるチャリティコンサートの開催、認知症予防活動「きたざわサロン」の継続及び各地域会における同様な活動の新たな展開、広島支部のバザーの開催・留学生との交流・ボランティア派遣・社会貢献寄付など、社会貢献への参加を促進する事業を実施する。

②SDGs活動ならびに「フレイル防止」活動の支援事業を展開する。

③地域会（神奈川・埼玉・西東京・京葉）と地域の公的機関（社会福祉協議会等）と連携し、地域に根付いた具体的な社会貢献活動を推進する。

④エンディングノート「私の大切な覚書き」を提供する事業を継続する。

（2）新事業開発

①人生を明るく有意義に過ごすための「いきいきシニア塾」を継続するとともに、フレイル防止、健康医療などの幅広い情報を提供し、社会参加を促す。

②同好会・地域会との連携を強化し、SDGs協働事業を幅広く展開する。

（3）イベント事業

シニアに社会参加と生きがいの場を提供することにより、社会の活性化に寄与すべく、イベント事業を一層推進する。イベントへの参加者が増えるような魅力あるイベントを企画する。

2. 涉外事業（定款第4条第1項第2号事業）

公益法人協会、さわやか福祉財団、社会福祉協議会、日本下水道協会などの外部団体と連携を深め、社会貢献活動の協働化や情報収集を行う。

3. 講演会事業（定款第4条第1項第3号事業）
広くシニアに自己研鑽の機会を提供するために、「ふれあいトークサロン」を開催するほか、各地域会・広島支部でも適宜講演会を開催する。
4. 広報事業（定款第4条第1項第4号事業）
 - (1) 協会ホームページの内容充実により、会員の社会参加支援・活動を活発化させ、新規会員の拡充と個人会員への広報活動を展開する。
 - (2) 機関紙「マチュリティ」を年2回発行し、個人会員・法人会員及び関連団体等に配布し、広報と啓発に取組む。

II. 収益事業（定款第4条第1項第6号事業）

「企業厚生施設のアウトソーシング」事業などに取組み、当協会の財政基盤を強化する。

III. その他の事業（定款第4条第1項第6号事業）

1. 「マチュリティニュース」、「ヒロシママチュリティニュース」を隔月に発行し、実施事業やイベントなどの連絡・伝達を行い、個人会員へ積極的な社会参加を促す。
2. 「はつらつふれあいの集い」、「二木会」、各種懇談会など、会員相互の親睦を図る会合を開催する。

IV. 当面の課題・・・運営基盤の強化

1. 法人会員対策
 - (1) 産業の変化に対応した業種及び規模を見直し、法人会員の裾野を広げる。
 - (2) SDGsの取組などの企業の社会貢献活動で、当協会が一翼を担う。
2. 個人会員対策
 - (1) 法人会員の社友会、協会のイベント、地域会活動との連携による会員獲得を目指す。
 - (2) 同好会の活性化・新設により会員獲得を図る。
 - (3) ポイントカードを活用し、イベントの参加者や新会員の増加を図る。
3. 持続可能な協会運営
 - (1) 財政基盤を強化する。
会員増強、寄付金募集、「私の大切な覚書き」の頒布、収益事業の強化、クラウドファンディングの活用などに取組む。
 - (2) 協会運営・事務の効率化を図る。
4. 地域会組織の充実
 - (1) SDGs協働事業、「フレイル防止」活動をはじめとした社会貢献活動の充実に努める。
 - (2) 会員の知識と経験を活かし、シニアが集まりやすい環境と出会いの場をつくり、社会参加を促すなど地域に密着して活動する。

以上